

鳥取県西部地震

【平成12(2000)年10月6日】

■地震の概要

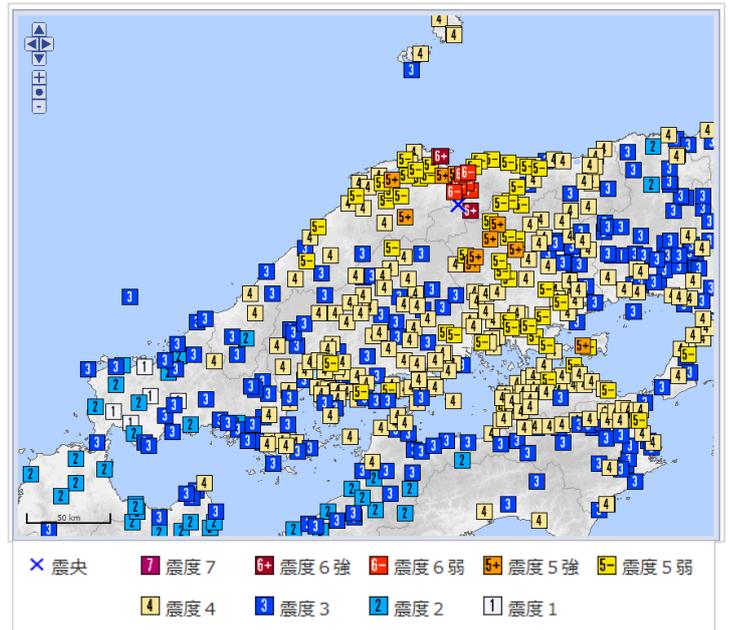
10月6日13時30分、鳥取県米子市の南方約20km、深さ約9kmを震源とするマグニチュード7.3の地震が発生しました。この地震で境港市や日野町で震度6強を観測したのをはじめ、中国・四国地方の広い範囲で震度4以上を記録しました。平成8年に震度階級が10段階に改正されて以来、初めて震度6強を記録した地震でした。地震のタイプとしては、陸のプレートの浅い場所で発生したのですが、既に知られた活断層ではなく、まだ確認されていなかった断層によるものと考えられています。

気象庁はこの地震を「平成12年(2000)鳥取県西部地震」と命名しました。

■被害の状況

この地震では揺れの大きかった鳥取県西部を中心に、島根県東部、岡山県北部などで被害が発生しました。震源地が山間部であり市街地の一部を除き人口密集地帯でなかったことから、174人の負傷者が出しましたが、幸い死者はありませんでした。住家の被害は、直接地震の揺れにより損壊したもののほか、米子市や境港市などの低地では液状化現象により沈下、傾斜した事例もありました。液状化では、特に港湾施設、干拓地の堤防などに大きな被害が出ました。このほか、道路、鉄道などの交通網、電気、水道などのライフラインにも被害が発生しました。

この地震では、鳥取県の2市4町、島根県の1市1町（いずれも当時）に災害救助法が適用されています。



本震による各地の震度分布【気象庁震度データベースより】



県道日野溝口線の落石状況（鳥取県伯耆町）



倒壊した神社（鳥取県境港市）



傾いた港湾施設の床面と柱（鳥取県境港市）



陥没した干拓地の堤防（島根県松江市）

■各県別の主な被害

区分		単位	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	計
人的被害	死者	人	0	0	0	0	0	0
	負傷者	人	141	11	18	3	1	174
住家被害	全壊	棟	394	34	7	0	0	435
	半壊	棟	2,494	576	1	0	0	3,071
	一部損壊	棟	14,134	3,456	943	6	1	18,540
その他	道路	箇所	581	43	34	8	0	666
	橋梁	箇所	20	2	0	0	0	22
	河川	箇所	48	21	9	0	0	78
	港湾	箇所	91	18	0	1	0	110
	砂防 がけ崩れ	箇所	30 348	0 0	1 18	0 0	0 0	31 366
被害総額		千円	49,843,757	5,288,142	1,496,376	80	0	56,628,355

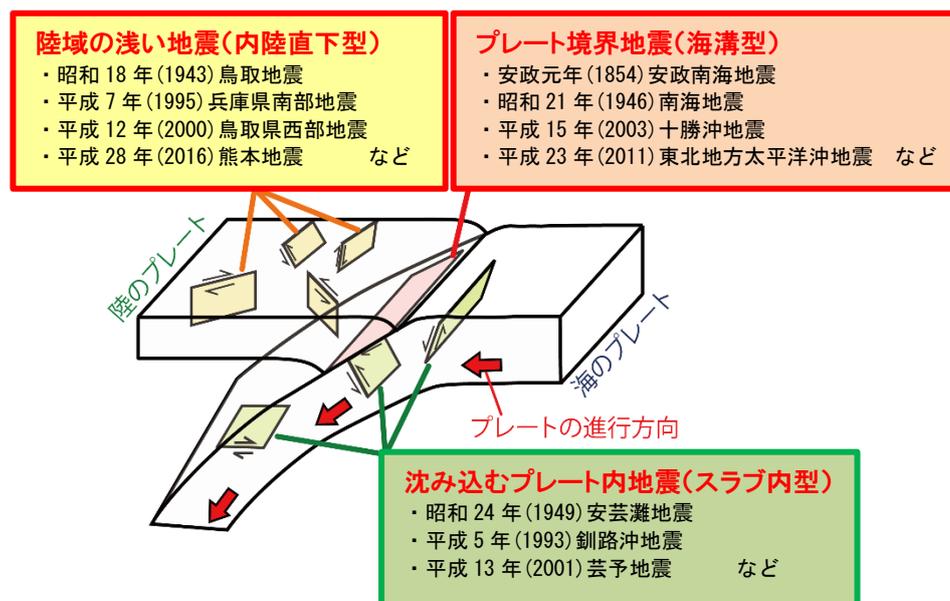
(出典：消防庁確定報 平成14年10月10日)

●地震発生のメカニズムとタイプ

地震は、地球の表層を形成するプレートの境界あるいはプレートの内部において、岩盤が壊れてずれ動くことによって発生します。海のプレートは陸のプレートの下に1年に数cmから10cm程度の速度で沈み込んでいます。この動きによってプレートの境界にひずみが貯まり、限界がきて壊れてずれ動くのが「プレート境界（海溝型）地震」です。東北地方太平洋沖地震など、巨大地震を引き起こすことがあります。

海や陸のプレートの内部でも圧縮される力によりひずみが蓄積され、限界まで達すると弱い部分が壊れてずれ動き地震が発生します。安芸灘地震や芸予地震は「沈み込むプレート内（スラブ内）の地震」で、震源は一般に深さ40～60kmと深いところにあります。鳥取県西部地震、熊本地震などは「陸域の浅い（内陸直下型）地震」で震源は深さ20kmより浅いところにあり、そのため地表では激しい揺れとなり大きな被害になります。

ずれ動く部分が断層ですが、地形や地層を調べ過去に繰り返し動いた形跡が確認され、今後も動く可能性のあるものを特に「活断層」と言います。中国地方では、現在、24の活断層が見つっていますが、地下に隠れ地表に現れていない活断層や、新たに生まれる断層もあります。



地震発生のしくみ【気象庁HP参照、一部改変】

トピックス

日野郡の蕎麦

鳥取県西部地震による全県の農林水産業被害は143億2500万円で1987年の台風19号の被害に次ぐ過去二番目の規模となりました。中でも農業被害は70億9千万円と前年度の県農業粗生産額825億3000万円の9%に相当しました。特に農地・農業用施設の被害が最大で、64億95009万円で農林水産業被害総額の45%を占めました。

通常の豪雨災害と異なり、農地や森林に亀裂がおびただしく発生し、大雨や余震などによって林地の崩壊、水田の漏水など「後遺症」が残っていました。地域別では日野地方農林振興局管内が最も大きな被害額となっています。

この地震により日野郡では用水路やあぜが壊れ、稲作ができない状態になりました。そこで取り入れたのが蕎麦です。休耕田となってしまうのを食い止める救世主となりました。その後、蕎麦の生産量は格段に増え、今では鳥取県内一の作付面積を誇っています。秋の日野路を走ると、白い蕎麦の花が一面に咲いているのを目にすることでしょう。

日野町根雨は江戸時代の参勤交代が交差する地で、出雲街道の宿場町として栄えました。根雨宿は大名が泊まった本陣の門や昭和初期の洋風銀行など往時の面影を今も残します。たたら製鉄が栄えた町でもあり、鉄山経営で財を成した近藤家の屋敷である旧根雨公会堂(現日野町歴史民族資料館・国指定登録文化財)は人気スポットです。この街並みに日野産の蕎麦を出す店もあるそうです。



遠望する大山と蕎麦畑（2023年）